

松本 部室

SUNAC

信州大学山岳会

上田長野山岳部

76年度前期山行報告書

1. 定着合宿
2. 赤沢山
3. 越後三山
4. 八方尾根 スキ-
5. 明星山
6. 屏風岩 稜
7. 奥又定着
8. 縦走
9. 北壁-A_左-A
10. 屏風岩 中央壁_外
11. 魚野川
12. 錫杖岳
13. 丸山東壁

夏山定着合宿 8/17 ~ 8/26

L 宅和 加賀瀬 西川 山本 瀬戸 箕田 中嶋 三井 竹之内

17日 ① → ① → ●

松本焚 5:15 ——— 黒部ダム 8:47 ——— 内蔵助平 12:51

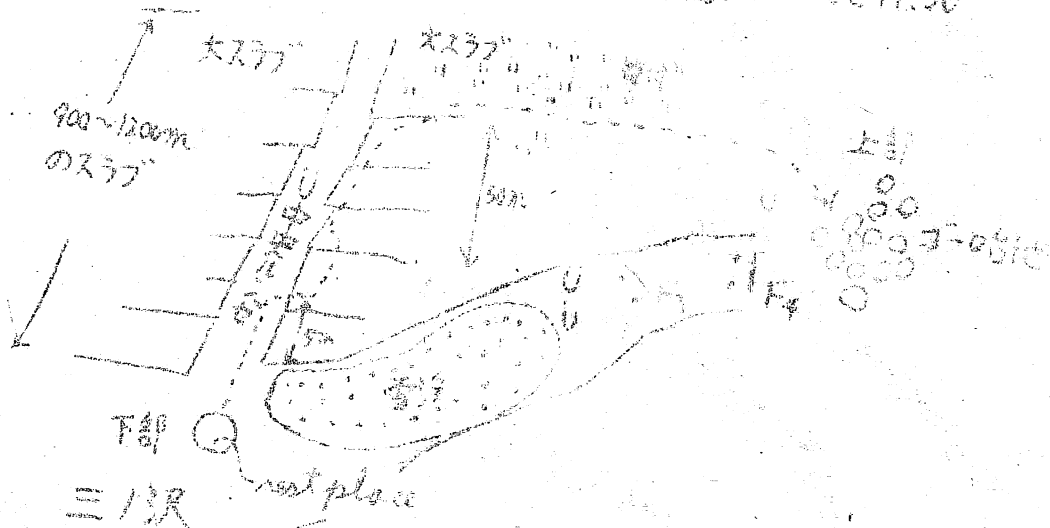
18日 ① → ② → ①

内蔵助平 6:25 ——— ハンコ谷乗越 8:10 ——— 真砂沢 10:00
 ——— 熊ノ岩 13:50

19日 ① → ②

ハッ峰縦走パーティ ——— 宅和 瀬戸 三井 竹之内

BC 6:15 ——— 真砂沢 6:50 ——— 三ノ沢入口 9:05 ——— ハッ峰 9:05
 6峰E faceの登り 12:45 ——— 分岐とA峰の登り 13:15 ——— BC 14:30



六峰久留米大〜少子左後線

山本 中嶋

BC — 取付 9:05 — D2-スの型費 9:30 — 三ノ窓 10:20

取付 11:05 — 終了 11:45 — ハッ峰パーティー各台返

⇒D2-スでは取付けが足りず、ヘルニを置いた。それが
1本増量して置いた。

六峰富山大〜少子北条新村・Gパン木623.7 西川 箕田

D2-ス取付 9:05 — D2-スの型費 — 三ノ窓 10:20 —

— 取付 11:10 — 押入 11:35 — 終了 11:40 — 各返

⇒D2-ス型費は623.4を少子で494.2〜〜(D2-ス)の予定
したが先行パーティーのためGパン木623.7を置いた。

20日 ② and ③ → ②

午前中はオスと小雨のために待機。午後から全員で六峰へ行く

A名 中嶋

L宅 北の繁 瀬戸

取付 11:00 終了 11:00 Top宅

⇒軽い気持ちで取付が出来ず、怒りながら三ノ窓と剣先まで移動して
苦戦したため、たいい苦戦した。(瀬戸)

C名 創植会

L中嶋 箕田 竹之内

取付 11:05 終了 11:45 Top 中嶋 箕田

⇒材料が足りず、とウリウリ登ったので時間がかかった。

A名 豊津喜

L山本 西川 三井

取付 11:05 終了 12:15 1pick Top 山本 2pick 三井

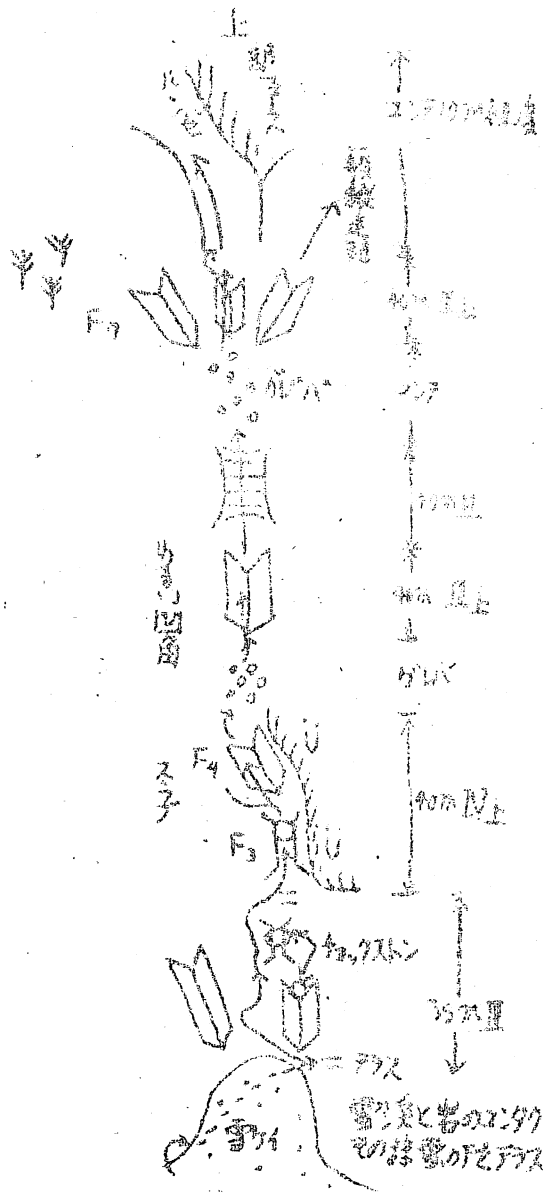
⇒て談を飛ばしたからのハッパン的の差置れた。

21日 ①→①

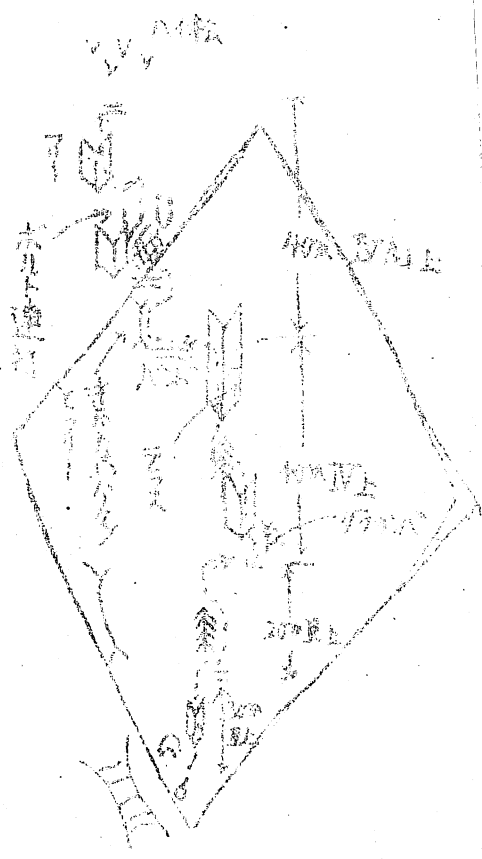
源次郎尾根 1峰平蔵谷側下部中央ルンゼ〜上部城大ルート
上西川、山本

BC 6:20 — 中央ルンゼ下の雪渓 7:25 — F₁の下 7:40 — 最終 8:00
— 中央ルンゼ終了 9:30 — 上部樹付心 15 — 終了 12:45 —
1峰 12:55 — 2峰 13:30 ~ 14:50 — BC 15:25

下部中央ルンゼ



上部城大ルート

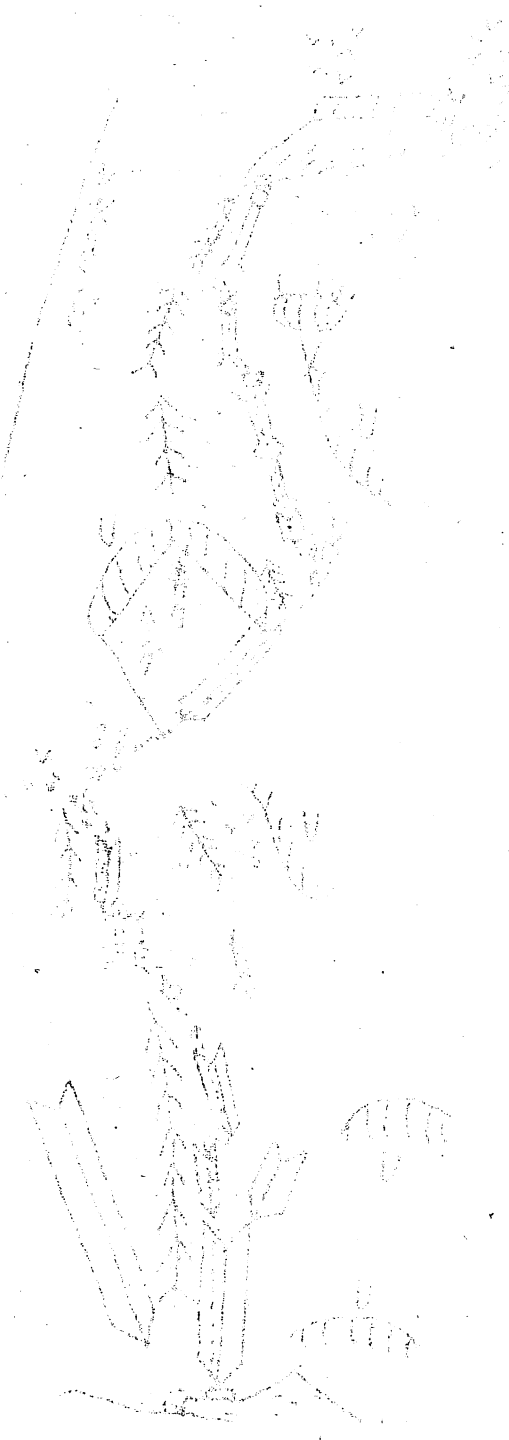


中央ルンゼはF₁の下で難しい
数は石壁の多い通り
城大は4月が難しい

感想 山本 おおのた
西川 秋山さん

深治即尾根 山峰平處右則 下留中領十 上界名大 上小
 上毛和 處戶

Be 620-1 處治即尾根 山峰平處右則 下留中領十 上界名大 上小
 上毛和 處戶



山頂上 山頂上

山頂上 山頂上

山頂上 山頂上

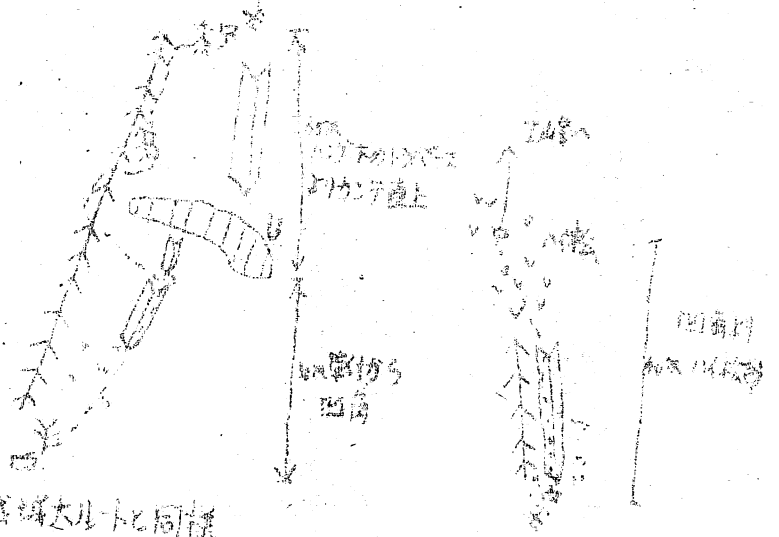
山頂上 山頂上

山頂上 山頂上

山頂上 山頂上

山頂上 山頂上

上部名大ルート



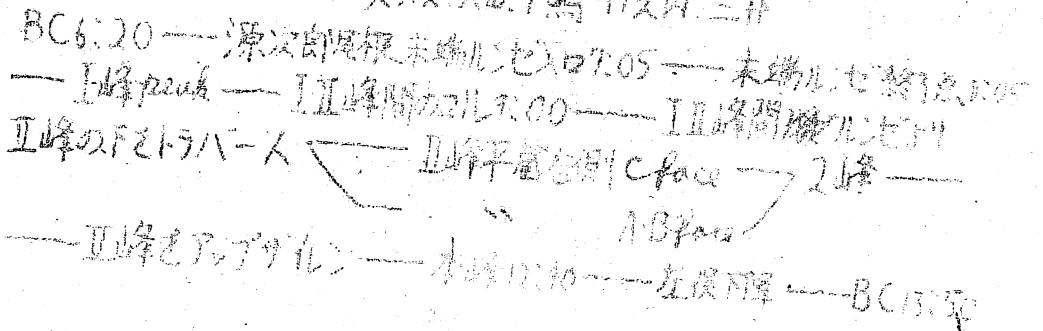
下部は尾根大ルートと同様

感想

実和... 中台ルートはしんどいだけでおもしろくなかった。
 源... 中台ルートはまたくしんどいだけで快適なところもたいてい
 ない。根心部はたがにきつくて、こわかったが
 他はたがにきつてた感じ

源次郎尾根縦走ルート

加賀 環 箕田 宇嶋 竹又 三井



C face 中嶋 三井
 取付 9:45 終了 11:00
 A-B face 箕田 竹又 阿
 取付 9:50 終了 10:40

22日 〇→①

大峰B face → 中津左下カテ → 左カテ
上 山本 三井

BC 10:00 → 中津(12:20) → 赤坂(13:30) → 大津(14:30) → 山本(15:30)
先物(16:00) → 中津(17:20) → 赤坂(18:30) → 大津(19:30)
中津と八ヶ峰の2回(19:50) → 赤坂(21:40) → BC(22:30)

・中津左下は思っていたより山が険しく、登山道の見通し2つほど
よりはアツク多岐にわたる。左カテ下り(12:30)に先物(16:00)の
道に合流するまで大変な山登り。2つ目の山頂(14:30)まで行くと
少しづつ楽になる (三井)

大峰B face → 中津左横線 上 宅和 箕田

山本(16:00) → 中津(17:20) → 左横線(18:30) → 大津(19:20)
山本(19:00) → 宅和(19:30) → 箕田(19:40)

・日影(16:30)は右に上る(17:00)までから、山が険しくなるので
右に赤坂(17:00)に上り、山頂(18:30)に上る (箕田)

A face 魚津急 → 水津敷村 AFD 675.7 → 上 積戸 中嶋

魚津急(16:15) → 終(17:20) → 中津(18:00) → 新(19:40)
吉澤(17:00)

A face 魚津急 → 中津中央社ニ → 又社ニ → C77.7675.7
上 西川 中嶋

魚津急(16:22) → 終(18:00) → 中央社ニ(19:50) →
終(21:30)

又加藤氏 STへ縦走はアツク
又西川氏 本峰(19:00)の下で、負傷(明白)下り得
ては方丈。

23日 ◎ → ● → ○ → ①

予定では全員で池の谷へ行くつもりだったが悪天のために
完全本回りになった。 * 西川代ヶがのため下山

池の平パーティー L 宅和, 中嶋, 三井

BC 6:35 — 真砂沢 7:20 — 平の池 9:25 — 小窓 10:55
三ノ窓 12:15 — BC 13:20

別山尾根パーティー L 山本, 瀬戸, 箕田, 竹之内
BC — 剣沢 — 剣山荘 — 別山尾根 — 本峰南壁 A₃
— 本峰 — BC

・ガスのために A₁, A₂ がみづから A₃ に取付機した。

24日 ● and ◎

● 朝から雨とガスのため待機。11時ころから雪上訓練を右俣で始
める。キックステア, ストップ, スタク, トグリセトを練習して, 13:10ころ
BCに着いた。

25日 ○ → ① → ◎

六峰 A face 中大 L 山本, 三井

取付 7:05 — 終了 7:45

D face 富山大 瀬戸, 中嶋, 竹之内

D face 久留米大 宅和, 箕田

全員 D face のピークに集合してクオパトラニードルへ一物の
先端に刺し、アプザイルンで下る。三ノ窓着 11:20
これより3パーティーで登山を完了

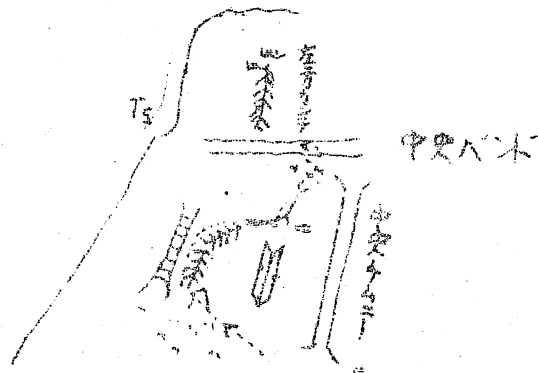
4ノネ左横線 L:瀬戸三井
取付11:55 終了14:10

中央壁より左方カテ L:宅和 中嶋
取付11:45 中央バンク12:30 終了13:45

北条新村よりaバンド~bクラク L:山本 笑田 竹之内

4ノネとハ、峰の頭のコルで合流してBC着15:20
夕食後はさやかな打上げコンパをしました。

4ノネ 中央壁



26日 ●→◎

ハシゴ段乗越えて、丸山へ行く上級生三人と内蔵助沢出谷付近で
わかずれ黒四クムへ下山

赤沢山岩場定着

昭和51.5.1 ~ 5.4

▷ L. 室和正彦 山本章 土田章

▷ 行動記録

5月1日 ①~④

長野 - 松本 (3:40) - 上高地 (5:00) - 徳沢 - 横屋 (7:30)

上高地線通行止のため 思惑裏で待期する。午後から 多少 天候を回復し、通行止を解除になったので 急いで出発する。徳沢あたりで 踏くあたりで 今日 横屋まで した。

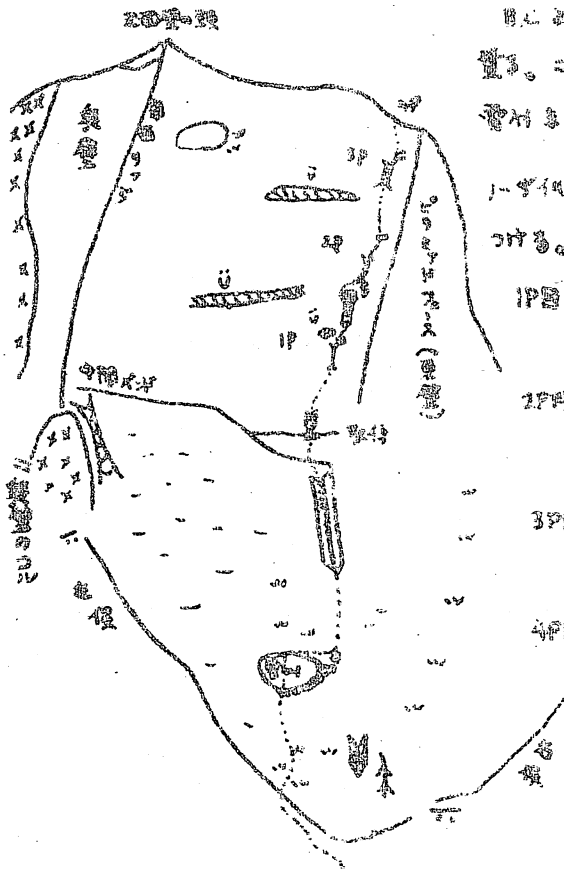
5月2日 ⑤

横屋 - 徳沢ロード - B.C (8:30)

徳沢ロードの 15分位 赤沢新 (赤沢出名の今前) の 曹原に テントを張り、B.C した。稜高に比べると この岩場は 静かであり 他に 30分ほど、しがらみ。植物の整理をした後、3人と 赤沢山正面壁 (南壁) の クラックルートを 登りにいく。

クラックルート

B.C (9:40) - 中間バツ (11:15) - 終点 (13:20) - B.C (14:45)



11:15より 赤沢を 踏石に注意しながら クラックルートを 登る。2層より 急崖を 登る。正面壁下部の 曹原まで 静かな岩場を 登り、ここを 登攀準備をする。(11:25)

1-5層まで フェース、凹角を 登り、中間バツまで 準備を する。(12)

19層 35m 凹角の 踏石の多い フェースを 登り、72mの 崖を 登り、凹角下まで 登る。

27層 40m 凹角の 凹角を 左に 回りこみ、凹角の 72mの 登り フェースで 登る。

37層 40m フェースの 4mほど 登り、右に出る 登る。

49層 20m フェースの 142m 登る。

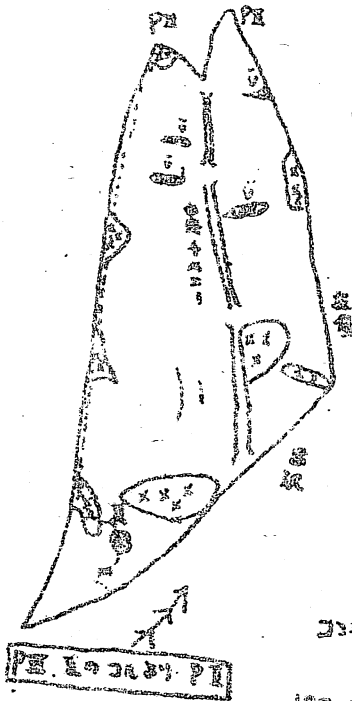
この岩場は 人が 登る ことが ない ため 岩場が 多い。しかし 見ると 岩は 堅く、高層部 (10層) 前後は 静かである。一層は 登る ことが できる。

終る魚より横線とハイソにぎ、雪線と歩いて、東にのびている赤い川の
1つ右の尾根を下り、横線ロッドの少し上には下、ている沢をのびて、ロッドと
ピはズはにちりながら下る。

5月3日 ● ~ ●

8.C (11:40) — 取付 (12:20) — P区 道のコル (14:50) — 奥壁のコル (16:20) — 8.C (19:30)

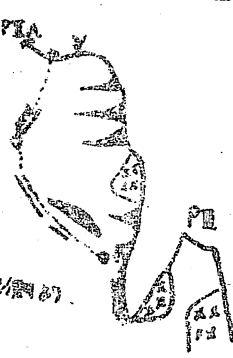
朝から雨が降、ているが カズボコ型アトの下に木の葉をひいてあるので 沢面に
泥濘地にあれる。 11時頃より 雨がやみ ガスに帰、てくる。 何となく 天気はよくなる
ので 沼和、山本と 奥壁 P区右カマテより P区 まで 歩く 事にする。



8.Cより 横線と 登り P区の下で 右カマテの 取付まで 登るが
よく分らず 中央4km一帯の 所を 通り出す。

P区 右カマテルート

- 1P区 30m 沢を左に トラバースの後 スズを直上し ロッドを
右に トラバースし プッシュアップ。
 - 2P区 35m プッシュアップと直上。
 - 3P区 30m 取付の 凹角の 7分、7分、 4km一帯の下で直上。
 - 4P区 30m 4km一帯の カマテと M区との間に 右に直上
直上。 こぼれ石 区域の 外に入る。
 - 5P区 35m カマテを 右上から 横断し 凹角。
 - 9P区 40m 簡易な スズを 横断線に 通りこす 凹角。
 - 9P区 30m 凹角の P区への 横線。
- コマテと M区とを 登るが P区、P区の 3kmへ 下る。



- 1P区 30m コマテの 凹角を 入ると 7分、7分、 登り スズを 直上し 1kmへ
直上。 こぼれ石 区域の 外に入る。
 - 2P区 35m ロッドを 直上し、 スズ、ロッドで 凹角の下で直上。
 - 3P区 15m 凹角を 右上 4分、4分、 7分、7分、
 - 4P区 30m 奥壁の スズを 横断線に 通りこす 凹角。
- 9分、9分、を 登るが、 P区 奥壁 M区との 高橋を 行き、 奥壁の
コルより プッシュアップと 直上 横断線に 直上。 7分、7分、を 登るが、
雪を 下り、 のびて 8.Cへ 行く。

5月4日 ●

8.C (11:30) — 横尾 (12:30) — 上高地 (15:30) — 松本 — 長野
横尾、横尾、上高地と 入る人 人が多く 居るのに 雪を 登る 下り する。

(数電)

越後駒が岳 4/29~5/3

4/29~5/3 L. 川瀬、加賀瀬、箕田

4/29 ① 磐梯山、線まで長野から小出駅。
 ② 小出駅は、かくくすかアバステアが変更されていた。
 大湯といふところまでバスでいく。180円。1時、25分。
 地元の人に馬の湯への道をたずね、そのとおりに歩いていると、
 林道が17:00にと閉じてしまった。温泉や旅館はなく、
 山藁とりの小やがけがあるだけ。無人だったのをごとこで
 泊ることにする。和りほたにカケがぶらさげてあった。

4/30 ① 6:00 出、ひきかえ車、今くもり。
 7:00 灰の又。工事中の、赤い橋を渡って着く。
 川のかた。ほくらほくら西の若くは道をえらんでいたので、赤い
 橋を渡るなかたのかた。4:30 馬の湯つうか。
 8:35 出 began raining. カッパを着る。小雨の中でメシ。
 10:50 小出山のピークたすの。少し下った馬の湯の工場で
 傘をさして天気待ちをする。
 回復しようとしたとき、まだ岩組をくんでリフトを出る。

5/1 ① と風、沈沈。加賀瀬とんへ行け。

5/2 5:10 ① 風、コーギー、川瀬とんを起して
 沈沈と沈沈、静かになる
 9:55 ② 霧がやんで、ふらふらのと 出発する。風も静まる。
 11:15 馬の湯の小屋。
 11:40 ピーク着、何人かの人がいる。
 12:30 粉雪、スノーシュー、ブーツをいっしょにくる。メシも。
 14:45 中の岳、小中着、かさな小中かにピクニック張りの下
 があり、ほくらほくら外で、骨こみをつくってリフト乗る。
 馬場から中の岳までは、尾根のところどころが雪見くたの氷で
 いて、氷の氷でいって、こまま、こまま、こまま

5/3

◎ 計画どくろやアア ぬくおていよので、

こま以上 沈黙が許さないうち、

天気予報をきいて、悪くなると言うのを聞いて
下山となる。夜、シユラフがぬれ、ウレタン、カミ
をきいて沈黙がしみこみ、不快で寒く、
三人とも びりびりおななめた。

6:55 出

9:30 ヤビヤ山頂着。中の密から、ウツカリ
尾根に上るまで、いたら、それは崩落への道で、加賀瀬
さんと、川瀬さんと下山路をみつけてもらう。雪が切
れていて、かん木をにぎりしめて下ったり、また急な雪面
に落ちた。すべり、一気に東麓の谷で、どう思えば
おぼろげに、この谷に落ちた。加賀瀬さんがうしろ
から平然と、「おまえおとれしや、てまんか」という。
「おれりや、てまん」と答えた。斜面がゆるく
なると、おれせーおとるころになると、すべりバランスを
失って、ゴロンゴロンころころした。

おれせをやりへらして、千倉峠についたが、新人合宿
で一年生以上はびりびりおななめた。おれせ
ウツカリだった。

11:10 野中、12:20 終極まで、そこから、大日野まで
バス。長野へのおれせは、おれせおれせおれせ。

(reported by Minoda)

八方尾根スキー山行 5/1~5/3

L 福井 中嶋

1日目 ● ふたりにやんたりに

もう絶対にふると解りきっている天気であたが物好きな私たちは、中嶋家白馬別荘をあとにしたので、車とケーブルとリフトで薬水小屋まで行き、スキーをひきずり、トースをポコポコ歩く。八方池山庄には、「これ以上スキー禁止」のはり紙。それを無視して第2ケルンまで行く。稜線は雪がなくなっていた。八方池付近まで登り、荷物をテボし、スキーをつけて、南股側をいさつに行く。雪の状態はよくない。100mほど滑降して、八方池付近まで登り、南股へ下る。雪は湿っていて、くろくもしくり強引なパラレルターンと、ステップターンで下った。約300mほど下ると、平坦地があり、ここから無名沢へ下ればいいのに、とんとムトラバースぎみに尾根の方へ行ってしまう。ところが尾根の先の方は雪がスタスタになって、ひかがっている状態であたが、尾根を回りこんで、八方押出しを下りことにしたので、ヤブコキをして尾根を回りこむと、急な雪渓が八方押出しにつづいてあり、横わりて滑り、先下り、コルシがあり、横の樹林帯は、アブサレシして、コルシの下まで用。そこからは、テフリもあたがとんと下った。八方押出し最後の斜面はわりやく、か、てい、い、ンボールが2本つた。湯入沢出合で、神戸市役所山岳会のテントのとりに、ツェルトをはた。

2日目 ●

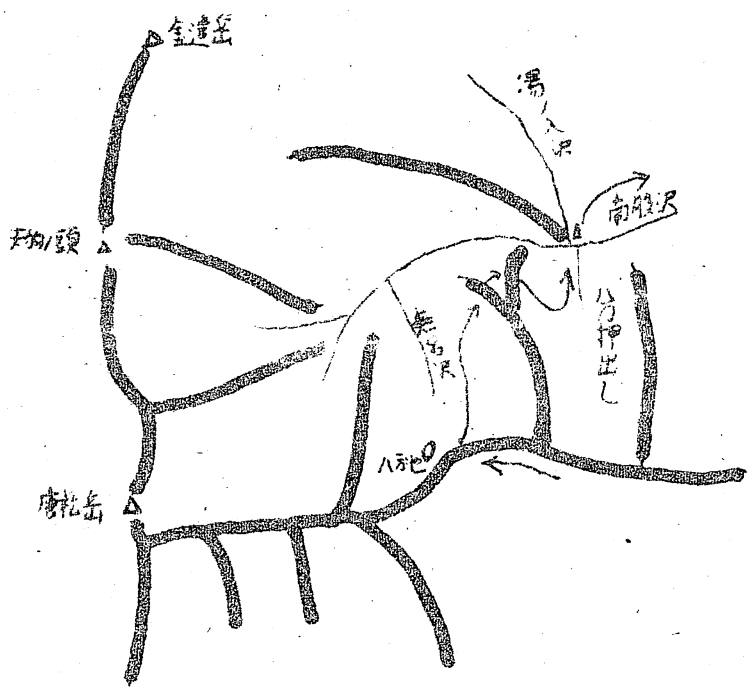
4:30

神戸市役所のテニ場でOBの市野代たちと遊んだ。
と

3日目

● → ⊙ → ①

賽予備日をつぶしてしまため半沈して下山打。



感想. — 山くつとスキーくつとではこうだと異なるところが?

明星山

期日 5月22日, 同23日

メンバー L 山本章, 吉田, 中嶋, 瀬戸

5月22日 ①時々①

松本 $\xrightarrow{6:00}$ 小滝 $\xrightarrow{16:05}$ 東壁ルンゼ出合

最初右岸より川を渡り、行こうと思いが数日前の雨で増水しており、吉田氏が二度試みるが流水が速く、不可能とわかり、あきらめて下のダムまで上り左岸をへばり、きながらルンゼ出合まで行く。

5月23日 ②のち②

下 $\xrightarrow{5:10}$ 東麓ルンゼ下部 $\xrightarrow{5:10}$ ルンゼ林壁 $\xrightarrow{8:30}$ 前後の北
ルンゼ出合 $\xrightarrow{5:10}$ 谷の峡上部 $\xrightarrow{5:10}$ 小滝 $\xrightarrow{8:30}$ 松本

朝早く出発して東麓ルンゼ下部をセーセーいながら登り、ドームのルンゼ林壁の取付に松本がいてつく。山本、瀬戸、吉田、中嶋で登り開始。2P以上ある壁にぶら下がり、雨がふり始める。これ以上の壁はないので、アップガイドで前後のコロに下り、そこより、もとのルンゼ出合まで登る。少しすく、減った水位も多少雨で再び増水していたので、川を渡り、あきらめて左岸をへばり、送水管のある谷の峡まで行く(途中胸までの徒渉2回)をこえ、右岸に降り、小滝へ。

感想、ドームの岩質は非常に柔らかく、じつに落石を起しやすい。上部に他のパーカールがあるときはほとんど気をつけないと落石を受けるものと思ってもおかしらである。南壁はさすがに大か。今度はこのほどと垂直の南壁にアタックしてみたいものだ。今日の明星は岩登りに来たというよりは、沢登りという感じであらうが、増水期の取付は何々もむずかしいと思ふ。

瀬戸

屏風岩 (東壁ルンゼ下部より東麓)

期日 6月19日 (同日)

メンバー L 山本 瀬戸

6月19日 ㊦

長野 — 上高地 — 横尾避難小屋

13:30

17:40

20:30

山本 瀬戸の他に西川氏と飯の友人 繪本氏の四人で長野を出発して上高地、そして横尾に暗くなるころに着く。

6月20日 ㊦

横尾 — 東壁ルンゼ下部取付点 — T₂ — 東麓 — 屏風の頭 —

5:30

赤ガリ — 横尾

16:30

18:20

東壁ルンゼ下部 { 取付 7:00
{ 終 } 11:10

東麓 { 取付 11:30
{ 終 } 15:20

屏風の頭の宿に到着した朝食のラーメンを食べて出発。天気は曇りがちで、1時間くらいに最付岳に着く。私からDでスタート。1p目は岩が水で少しぬれていて、2p目山本とPに付くがそのハーゲンに事がある。1pは、その途中で切れてしまった。ふと右の壁を見ると、そこに正しいルートがあるではないか。ここはルンゼ1時間。ついに1時。あとは下アスのガリガリで快適に行く。下に着いたのは11:20であった。

東麓もハーゲン。ボルトがべた付まじり。2p目まではゆとりと楽であるが3p目がフリーが折れてくる。そこを、こうハーゲンが打たれているが、フリーに付くには、互、即には付く。こうもすがら、つ鼻ピナを履いて、東麓をぬけて頭に着いたのは16:30ごろ。夕からパラマ新道を下りて上高地に行、でも最終めは、その間に合点のない赤ガリを下りて、今夜は横尾でとまることになる。

6月21日 ㊦

横尾 — 上高地 — 長野

6:00

19:20

長野へもどる時は、もう長野は覆けた。暑い。

奥又白定着 (7/13 ~ 7/15)

(L) 山本, 西川, 土田, 中島, 瀬戸, 箕田, 三井

7/13 ① → ② → ③ サマ天 出る時は、結構ダンプも重く感じ
たが、徳永まで歩いてきた頃には、さほどもう重くは感じなくな
っていた。 松高尾根への取り付き地奥までは、新村橋
を渡、本谷の河原に入り、左手の目印のところに河原沿いの道を
早朝の沖と湿気に蒸、おひながら、フワフワ河原に飛び出ると目の
前、松高のせと松高尾根、本谷が急に表れ、終了。

松高尾根の登りは、最高は苦しかったが、高度もグングン
稼げてほんたうの登りという気がする。 こんな時は、山本さんの
「一本、いっせ、」の声が大変な力になり、鬼に当たるとききた。
又白池への松高尾根最後の登りは、モウダメウ、ヒル
時、池のふちに立っていた。

B, C を経営し全員で四峰登攀に向うが霧、インセル
が四峰正面の見合けがつかず(ほんたうにミル色の様な霧かた)
C 沢とD 沢を間違えて、D 沢に入り込んでしまう。 西川、中島、
三井はD 沢を抜け^{四峰}登るの北へ出て五峰 peak へ北尾根を縦走
し、前穂 peak から A 沢を経て B, C 到着。 山本、土田、~~中島~~ 瀬戸は五
峰に少し登、てから雨が降り出し、そのとき引き返した。 箕田、瀬戸

7/14 ● テント外は、そのうちG.A.S. 雨は小降りにて、沈殿

7/15 ④ → ⑤ 5:10 AM B. 登

四峰松高ルート (山本、箕田), 北原新村ルート (土田、瀬戸)

中大ルート (西川、中島、三井) 以上の3パーティで、四
峰松高ルート

三、四の山を經由し、C沢下降、C沢下部をトラバースし、右岩壁
パーティと、CBAフェースパーティに合がる。また登山前の時
期、この日、他パーティは北壁にいたつた。その代り、岩が
思つたより多く積まされてゐる。この時期の登山は天候をよければ前
な一時を楽しむ事が出来た。

CBAフェースは、この頃が快適に歩ける。A沢をないで前線ロー
プに降り、その下にプレザードがある。前線ロープには右岩壁パーティ
がいないので、この30分、ロープを直にする。A沢(=延伸のA沢)を
經由し、この山B、C着。翌日、右岩壁パーティはBの山頂
して着たが、どうも構子があがしく、二回山には右岩壁で事故のあ
つた事を知る。事故の話を聞き、ガイル山の切斷面を見、あつた時、
一瞬ゾッとした、急に下山する事になり、その山頂に地出登、山本
の山頂には、一足踏み下り、松高尾線を下りた後は、もう暗
くなりかけてあり、本谷を抜け、梓川の河原に出た頃は、真暗闇であ
つた。サマタには夜中の10:00過ぎに、バグパーティになりながら到着。
思つてみると、今回の登山は、精神的には難しかったが、登山
といふものの、さまざまな側面をかりに見たよふな気がする。

ガスによるC沢とD沢の見間違ふ、C沢A沢の雪道下降、
岩登りの壁落事故、真夜中の下山等、新人にとっては、息の切
れるような事ばかりだつた。だが偶発性の強いこの山の事に接
する事が出来た事、この山の山行経験のプラス要素として行
く事が出来た事、貴重な経験をもらった事に変わりはない。
とにかく、今回の定着は登攀こそ少かつたが、中身の濃い山行で
した。

(三井記)

7/25 ○ 沢登

(8)

7時頃中ぐり起きる。朝食の焼そばを美味しく食べ、泉沢で洗濯
などをして各々気ままに過ごす。昼飯のホットケーキは大失敗、生炊の
芋大分食べて気持ち悪くなった。

7/26 ○ → ◎ 東沢出合 → 小岩峰 → 赤牛岳頂上 → 赤牛・水晶間最低コル

(9)

5:12 4P 9:20 10:13 12:10
1:36 11:30

初めの15分はものすごい急登である。その後少し平になってまた急
登と繰り返しながら登っていく。下りが無いので1歩1歩が確実に高登
を修める。5mとした鎖場やヒバークをきついな所たどって通過する。3P
歩いて大きい石がある、小さいお花畑で昼食を食べる。ふと空を
見上げると積雪が浮かんでいる。森林限界から30分程歩いた
所にある小岩峰からは赤牛岳が真直に見える。まず先に小岩峰
がある。赤牛岳の頂上は素晴らしい眺めだ。薬師、高天原、雲ノ平、
黒部五郎道、水晶、槍、穂高、西鎌、北鎌、野口五郎、...とくぐりと
見渡せる。思った程きつくなかった。鏡見新道に加えてこの景色は
何とも言えず綺麗だった。氷ミルなども食べながらゆっくり休憩。キ
アアハヤたくさんいたトンボたちと別れて中広くなだらかな尾根
をたどる。ここから稜線漫歩と言った所だ。天場には、黄色い
スミレが咲き、石英らしき白い石がたくさんころかっていた。

7/27 ◎ → ◎ 赤牛・水晶間最低コル → 水晶岳頂上 → 三俣山荘 → 双大池

(10)

5:17 2P 6:58 2P 9:27 2P 11:26
7:10 9:42

曇っている中、後2日の晴天を望みつつ出発する。水晶岳麓前で雨が
降ります。頂上でカーハエフケ、ピンセションになって歩き出す。途中、
雨の中で井戸を覗いて、1P岳は知らぬ、うららに雪王様岳は
巻くように登り、三俣山荘へと下り、三俣山荘に到着して、雪
通しに双大池へと向かう。歩き易い雪の上をどんどん下り、道に出
てからもハイペースで何ハイペースが追い付き、天場に達した頃は
雨も上がっていた。

7/28 ◎ → ◎ 双大池 → 千丈沢乗越 → 槍ヶ岳^尾 → 11俣出合 → 上高地

(11)

5:10 2P 7:21 8:15 3P 11:58 3P 15:11
7:35 9:27 12:16

最終日ともなると身も心も軽い。西鎌尾根からの景色は羨望で
溢れる。鏡見尾根や北鎌尾根を左に見、真正面からは槍ヶ岳が
次第に大きく迫ってくる。最後の急登を終え、不意の肩に着いた時
は「やった!」と思わず叫んでしまった。後からた後立山からの新道走
も今や完成はほぼ途中にある。穂先への道は鎖や棒子などにつ
いているが大した事はない。槍沢はスリコースで下流に下降。
と言いたい所だが、ヒバークの2度もはかばかたりて散々だ。
...と高天原へと向かう。

[日記]

・とりくも全行程を歩かされたことを一番嬉しく思います。重荷に喘ぎつつも中盤には天候にも恵まれ、展望も素晴らしくて、思う存分登山縦走の楽しさを満喫できました。苦しい11日間でしたが、それだけ充実していたと思います。沢を徒渉したりへっつたり、岩壁を登ったりと結構バラエティーに富んでいて良い経験になりました。結局、私にとっては最後の合宿になってしまいましたか、いろいろな事をお教え頂き、とても貴重な合宿でした。

最後に、中嶋さんか膝の不調のために完全に参加されなかった事が残念に思います。

泉 在道

穂

前穂 東壁 北壁 ~ Aフェース 8月4日

上中嶋 箕田

計画では8月3日と4日で東壁と滝谷へ行くつもりだったが、雨のために東壁だけになったのでした。

8月4日 ① → ②

STを6:30に出発。2ピ、4で松島ルンゼ取付。松島ルンゼは連日の雨のため水がサーサー流れ回っているらしく、さらに2ピ、4で奥又がせりだして足元が不安定な場所。後には合宿所へ戻った。

池から川を登って、B沢へトラスしてさらに登って北壁取付13:30

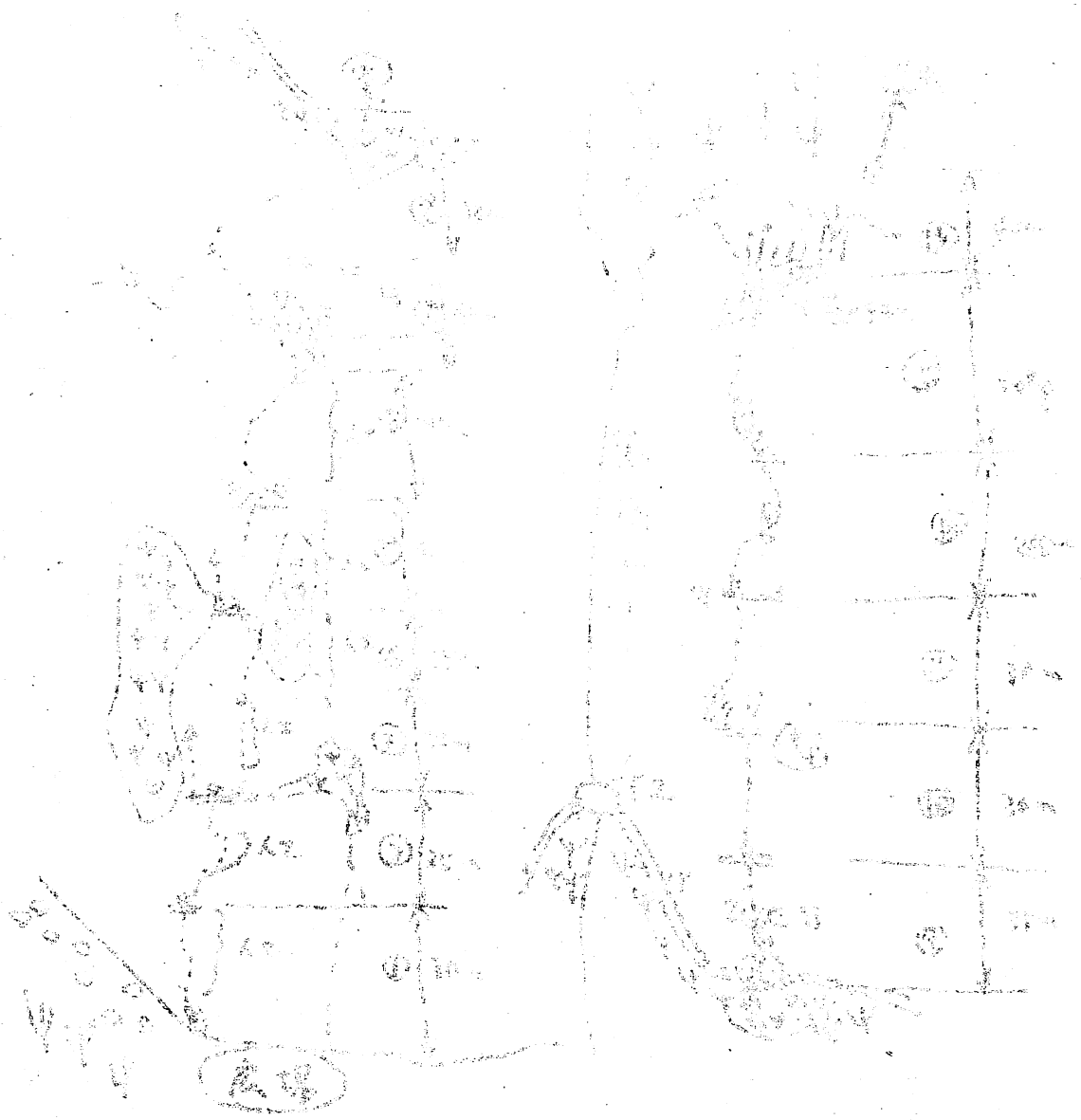
1ピ、4日 Top 箕田 2ピ、4日 中嶋 3ピ、4日 箕田 4ピ、4日 中嶋

5ピ、4日 箕田でT₂へ出た。Aフェースを2ピ、4で登り前穂山頂14:30

ごはんを食べ、重太郎節とSTへ下った。時間がおそくなりみなさんに心配をかけたしまいました。ごめんナサイ!

1. 研究目的：研究目的在於探討... (The purpose of the study is to explore...)

2. 研究範圍：研究範圍包括... (The scope of the study includes...)



魚野川 敗退記 8/10 ~ 8/14

瀬戸 川瀬 宇嶋

8/10



川瀬氏のカーターした軽四輪に乗り、瀬戸を出発した3人だったが、雨がふる、いて意気が上がらない。何回も道を間違え、津南には12時近くについた。秋山郷への道は悪くて、何しろ車が軽四輪で、悪路車が免許取れてた。たので、大赤沢の寺前で黙ってしまたのでした。

8/11



前日の敗退で意気消沈は軽四輪にあり、たが、OBのNRにあたてられ、5時の国鉄までかけたのであります。津南からはバスで小赤沢まで、前日と同じく簡単についたのです。小赤沢からは車にのり、てうは、12時ほど夢見たたけて、切明につきました。切明からは上流の小波鉦まで、おんとした道がついて、口で予定してはる道を行くつもりだったので、200mの登りに懸念なし、水量の少ない魚野川の谷をぬぐことにしました。粘土の川は、松原川出合でツルツルと滑りました。おぼろげに時計を覗いた、ミジメ!

8/12



行動を開始して15分ほどで川原につくと、強引に右岸側の瀬戸としめりめに、川瀬氏と私は、困難なドロのルートを登り、急登を登る。急登で川原にありてみると、瀬戸はいなかった。彼は私たちが先におりてくと思、て、先の方に行っていたのだ。た、後の話しによくと、先のは船が悪くなった、急登の急登道を登、て上の歩道を歩いてた。おぼろげに時計を覗いた、ミジメ!とあてられた。ことには上流は水がせーが流れていたので、大赤沢出合の川原と、ただただ、のりかえして、大赤沢出合が夕方上流は、小赤沢下や、川が、出てくるが、急登もなく、ボクボクと歩いて行けた。急沢出合から、おぼろげの所に、おぼろげの海が

あらわれ 右側と登り 氷上溪の川原に「カミ」を捕れた。この日も
また「ワナ」は釣れず途中で「ワナ」を仕掛けて「魚」を捕ておま
な変更をした。明日は下山と決めておく。

⑧ 経路をひきかえすうちに、要行がなくなり、4日歩いた切羽につた

◎ これには雨が降って来た。明日で「温泉」につかえ、本山部落の橋を

↓ 車をつかけて「温泉」へ行ったのであった。



錫杖岳 ¹¹³ールンゼ

8/11 ~ 8/13

L, 宅和, 山本, 箕田

8/11 ① 10:00 Summer Tent を出る
11:45 焼岳小屋着, パースが一定している。
STで暮らした生活をしていたので
苦しい登りだった。体が重い。①電量8。
12:50 林道に出る。13:40 望月の入口。
14:35 フリヤ谷に出る。フワフワに歩いて 手先と頭
がしびれて苦しい。
15:10 右岩に岩小屋あり。錫杖岳との融合したテント一張。

8/12 5:45 岩小屋出。
岩小屋のうらの箕田の程まで降り、右におし出しを
みつけ、それをつおると、ールンゼのヒリツキであった。6:10。
6:25 どうはん開始 ~ 12:45 終了

T₁ 山本, ビオラのフリヤげ。フリーではむずかしいという。
T₂ 山本, ほくと宅和さん アブミ使う 30m。
T₃ 箕田, ほぼールンゼの中, コンテで歩ける, 90m。
T₄ 藪核心, アブミ。新しい場面が長い。VA2はウリたむた。
T₅ 藪ほくだけ アブミを使う。水は夕方まで。

~~T₆~~ ラスラシキとここの右少し上にいる。9:40。

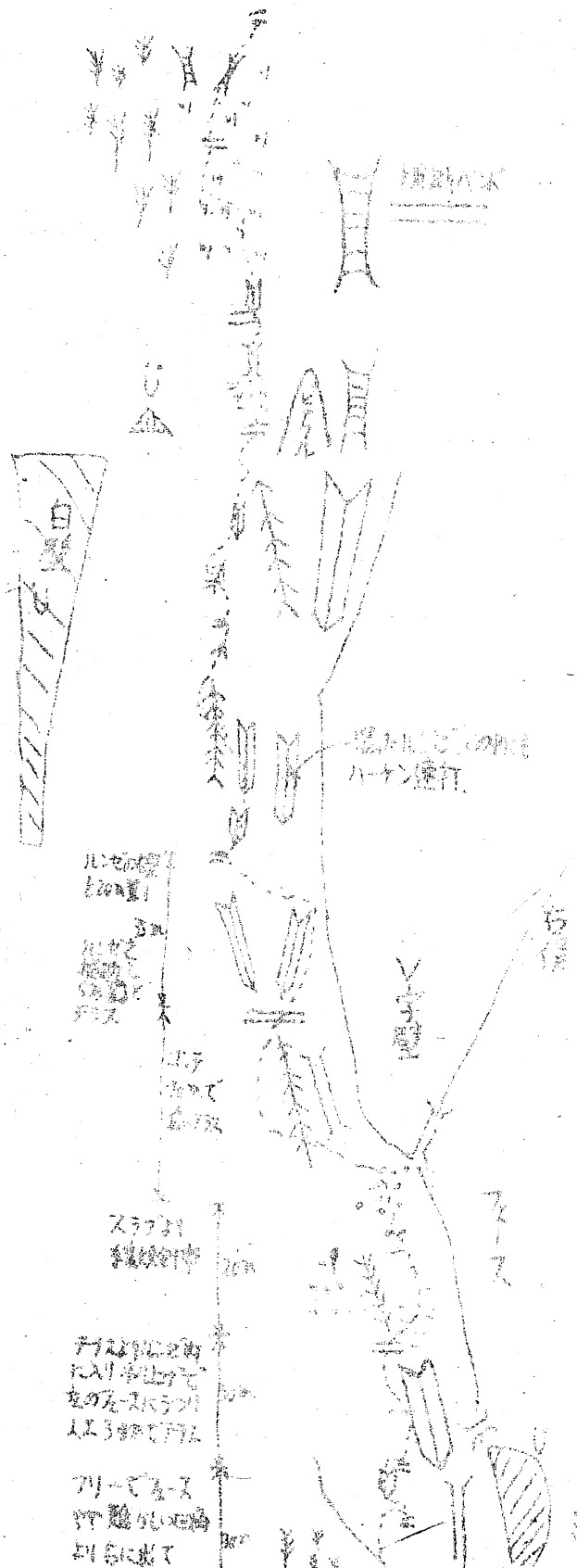
T₆ アブミ回収できなくナリーはん時間がかかった。
宅和さんの指示してくめるかん本たすかどどがある。

T₇ 宅和, アッシュの中, 太い本でどローする。
おもしろくも何ともない。

T₈ 箕田, かん本くぐりとほらある。
宅和さんと山本さんに 落ちる石がある。13:50 岩に
入って動けなくなり, 木がいて 石をおとした。

12:45 終了。西の肩まで行き, その付近から錫杖決下降。
15:30 BC 着

P3の草集



アサギ草はるるし

凹角川原付を劃
アサギ草

快進アサギのハ後
どナクル下で2本のハハース
草付ハニーを還ラス

凹角川ハバ
左の凹角川ハハエ
アサギハハース

錫杖岳前衛アサギハハース左ハ保

8/12

実地
山本
3/10

丸山南東壁 登研ル一ト

昭和21 8.26 ~ 8.29

2 定和正彦 山本章

8.26 ①→② 長次郎飛(定) → 穴越(定) → 穴越(定) 助谷(定) 日岩(定)

合宿を終って晴しき早朝の朝霞と岩木屋で別れた。朝の強風はついに退き
上り、明日はどしてて座をねばなす。丸山の凝れが下り、11時人は
平地まで登る。心色岩の頂上は雲に覆われ、善悪する。この日の後半
を待し早々に寝た。

8.27 ③→④ 登石丸山壁

いざ岩山南の3と不意に岩壁に付く。一歩のきつめ登研ル一トの難付きと
高はき固着をさす。岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。

風斜度のアースを30分ほど登ると、岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。
1P8-10の岩壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
しきりや、機軸のつら、岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。

2P日 正彦の登研ル一トは、岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。
頭上の岩壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。

3P日 この日は、岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。

4P日 10分ほど登ると、岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。

5P日 この日は、岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。

2人でドツツと、岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。
岩の壁は、ここがあたりをつけて登り行く。ここがあたりをつけて登り行く。

戸隠山行

7月28・3日

Member: (山) 中嶋, 三井, 泉, 竹之内

7/2 ① 在院本部前。三井, 泉, 竹之内
24:00 ~ 3:10 川瀬駅。下宿に着き酒場

7/3 ① 中嶋駅 8:05 川瀬駅着

川瀬駅発 8:41

長野駅 9:08

|| (10:10 山道入口)

宝光社 9:55

② 山道入口 (休憩) 10:29

(4ピッチ)

PI 14:19

14:29

後立山連峰がくろり見える

(1ピッチ) 西岳通過

本院岳 15:18

15:33

(1ピッチ)

板倉清水 15:59

16:12

尺杖下り2箇所
水99に水さく石

八方ニラミ小屋 17:02

口本叶 醍醐小屋 ツェルト 5張

7/4

昨晚は強風と雨に降られて夕方までが今朝は晴れといます

① 起床 4:30

出発 6:44

(10分)

一不動小屋 8:00

この荷物を探し

8:40

食糧・ビニール・ツェルト

を積んで出発

(20分)

②

高喜山 10:44

この山頂の石を採る

11:00

登山杖・行きの準備

(10分)

登山杖・行きの準備

登山杖・行きの準備

③

乙喜山 11:52

ピークに到達

12:07

ガスで少し見えなくなる

高喜山 12:49

三井のテラスに

12:49

到着

④

一不動小屋 14:12

乗換を待たずに下山の途へ

14:21

戸田 15:29

バス

長野駅 → 解散

(感想)

この山行に思いをはせる。世に広くは ESSEN を

非難されたい

(記・1924)

1 アルプス南部縦走

7月22日～7月27日

叔母 敬典

7/22

伊予大島 → 塩川バス停 → 一本 塩川小屋上の最初の橋

- ① 3:10
- ② 4:00 ~ 10
- ③ T. 尾根取付
- ④ 4:

7/23

- ① 5:15 T.S 発
- ② 6:05 ~ 15 水場の上 15分
- ③ 6:05 ~ 15 一本
- ④ 6:00 三伏沢テニ場着
- ⑤ 6:00 " 発
- ⑥ 6:10 ~ 20 一本
- ⑦ 7:05 ~ 11:15 一本
- ⑧ 7:30 塩見 EP 着
- ⑨ 7:55 " WP 発
- ⑩ 12:55 ~ 13:05 一本
- ⑪ 3:45 T.S 着

塩見からの帰りはえらめた。
 シーズンインの為、人が多く塩
 見の登り下りは時間とロスする。
 三伏沢のテニ場は気分がよい所です。

24

- ① 6:50 T.S 発
- ② 7:35 ~ 6:45 一本
- ③ 7:45 ~ 7:55 一本
- ④ 7:45 ~ 8:55 一本
- ⑤ 8:45 高山裏避難小屋

登り下りのあまりない緩線にリ
 と、雨の高見道しかなく、木々
 登降の為、人がいる。
 高山裏のテニ場は湿っぽくあり
 り気分は良くない。

25

- ① 6:15 T.S 発
- ② 6:05 ~ 15 一本
- ③ 6:05 ~ 15 一本
- ④ 6:30 ~ 8:20 中岳、前岳 附近の散歩
- ⑤ 9:10 ~ 20 大聖寺平
- ⑥ 1:05 ~ 15 小赤石の台藪
- ⑦ 1:05 ~ 40 赤石岳
- ⑧ 1:05 石間洞 T.S

評判の高がと塩川の登りは思った
 より楽たが、と赤石の登りはえら
 した。
 赤石は残雪が残り、北丁的の感じがする。
 石間洞のT.Sは赤石の石の環い切込込み
 石の間に草も、せいのと降りには、こぼれやすい。

7/26

- 5:30 T.S. 発
- 6:20 ~ 30 縦走 峠
- 7:20 ~ 30 一本
- 8:15 ~ 35 90分 峠
- 9:10 ~ 30 一本
- 10:10 ~ 11:05 聖岳
- 12:00 聖岳 T.S. 着

聖岳のT.S.の北辺は若くは
 かのし橋の時間があるが、
 聖岳のT.S.の橋は自分の良い
 所は、うらやまといふ所だ。

7/27

- 7:45 T.S. 発
 - 8:25 ~ 35 一本
 - 9:30 ~ 40 一本
- 西沢 寝道 1本のカバン

- 10:15 ~ 11:15 西沢 寝
- 11:35 ~ 12:05 一本
- 1:10 ~ 1:30 北沢 寝
- 2:10 ~ 2:30 一本
- 3:10 ~ 3:30 一本

歩き出しは5分ほど
 トロッコに乗せてもらう。

林道の長いと長いこと。
 寝にきてどうしようもないのでか
 たまら歩く。白た頭ウサに寝が
 べつのは又眠の寝と寝。寝寝
 寝た。うらやま。酔はれた。
 北沢 寝。本番にこらえよう。

※

あつりスリのある山行は無難かと思ふ。
 でも最後の年の思へ出としてはこもる山行も良かった
 してはなにかと思ふ。一人でゆっくりと自分の好き
 なように時間を使った山行をたまたまから。
 思へた。登れらり(自分でも意外に思ひ出した。入山の
 前のトレッキングが良かった。荷物が増え
 ったといふもあるがきつくない。山と道は、疲れた
 とか一層きつかった。天候も悪く思ひ出した。山
 行がでかした。

終